

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷十五第

月四年五十和昭

論叢

乘數の問題……………文學博士 高田保馬
支那の永小作制度……………經濟學博士 八木芳之助

時論

物價對策……………法學博士 神戸正雄
戰時物價對策の再出發……………經濟學博士 谷口吉彥

研究

江戸時代の經濟政策……………經濟學士 堀江保藏
期間分析と均衡概念……………經濟學士 青山秀夫
マックス・ウェバーと十九世紀の方法的意識……………經濟學士 出口勇藏

說苑

一九三九年の銀需給……………經濟學士 徳永清行
東西經濟思想の相似性……………經濟學士 穂積文雄

附錄

彙報
外國雜誌論題

經濟學部

○京城帝國大學助教靜田均氏は昭和十五年二月二十九日付を以て本學助教に任ぜらる。

○昭和十五年度授業擔任 其後内定せしもの左の如し
保險學 佐波助教授 經濟學史 白杉助教授

第一學年 田杉講師 出口講師 堀江講師
鈴木講師

英經濟書 第二回生 中谷助教授 佐波助教授 靜田助教授
堀江講師 鈴木講師

第三回生 中川助教授 中谷助教授 佐波助教授
穗積助教授 徳永助教授

獨經濟書 第一學年 堀江助教授 白杉助教授
第二回生 青山助教授 田杉講師
第三回生 大塚助教授 出口講師

佛經濟書 第一學年 五百旗頭講師
第二、第三回生 松岡助教授

經濟演習 靜田助教授

特別講義 獨逸社會政策 中川助教授 貨幣銀行論 中谷助教授
景氣論 青山助教授 カルナル論 靜田助教授

日本財政史 吉川講師

○本年度本學部入學志望者二百八十二名のところ試験の結果二百六十九名入學を許可せり。

經濟學會

二月例会 二月廿四日(土)午後一時より樂友會館に於て開催
次の如き興味ある報告が行はれた。

一 江戸時代の經濟政策 堀江助教授
江戸時代に於て幕府及び封建諸侯が採り或は採らざるを得なかつた經濟政策を各部門に分つて詳説され、最後にそれらの經濟政策のもつ封建的及び近代契機を明らかにされた。詳細については本誌本號を参照せられたし。

二 蒙疆に於ける漢人の農業的進出 菊田太郎氏
長城線に沿ふ地帯は、自然的に海岸地帯と内陸地帯との境である外、人文的にも遊牧本位の蒙古人社會と農耕本位の漢人社會との境界として、重要な地位を占める。そして、最近では漢人がこの境界を超えて北に發展してゐるが、漢商が蒙古人社會の存在を前提とするに對し、墾植即ち農業的進出は、遊牧地帯の農地化、蒙古人の驅逐となり、意味が深刻である。現在、察南、晋北兩政府管下を除く蒙古聯合自治政府管下に於いても盟旗部即ち蒙古人人口三十萬、縣市部即ち漢人人口約二百五十萬なる割合を示すのは、主として墾植の結果である。漢人農業經營の實際を見るに、(一)北支と等しき主敎方式、(二)局部的によく發達した灌溉、(三)大地主制、(四)農民の移動性を特徴

とする。漢人のかゝる墾植と蒙古人の北退とは、自然の均衡の破壊、蒙古人の牧地減少を意味し、しかも北支の人口過剰は僅か緩和されるに過ぎず、東亞新秩序の立場から新しく検討調整さるべき一問題であらう。

當日の出席者―汐見・谷口・大塚・堀江・中谷・佐波・穂積・徳永・白杉・田杉・出口の諸先生・菊田・青盛・柏井・三谷・澤崎・中西・馬場・鈴木・堀江(英)・辻の諸氏

○會員動靜